I. 地域的周産期医療のシステム化に関する研究

分担研究報告書

高知医科大学産婦人科
武　田　佳　彦

本研究ではシステム化の中核である母体搬送の運用ならびに搬送対象のうち頻度が高く，多彩な病態をもつ胎内発育障害の管理について臨床的な指針作成を目的としている。本年度はとくに指針作成の基礎となる実態調査の総合的なまとめを行った。

母体搬送に関して胎児救急の運用については，評価の基礎となる「maternal transport」の定義について検討した。また地域化についての啓蒙にはそれぞれの地域特性を考慮する必要性が指摘された。

母体救急では１次及び２次救急指定病院の搬送例について，対象疾患，治療内容，搬送情況等を比較した。さらに全国的規模で実施されている日本母性保護医協会の定点観測モニターによるアンケート調査を実施し，搬送の実態調査を行った。また医療経済効率の面から母体搬送を検討し，その有用性を明らかにした。

胎内発育障害児の管理については診断基準の確立と安全管理に分けて検討した。

診断基準の設定ではmatched control による解析を行い，その病態解析を行うとともに産科的要因を説明変量とする判別を行い，スクリーニングの基準を確立した。

安全管理については，分娩誘導の基準としての肺成熟の指標を追求し phosphatidylglycerol の重要性を明確にした。またＮＩＣＵ収容児の検討より，妊娠２６週未満，出生体重７５０ｇ未満の救命率が極端に低いことから，この時期の妊娠維持を含めた問題点が検討された。胎内治療については，なお実験的研究の域を出ないが，テオフィリンによるＩＵＧＲの改善効果に基き，臨床例への応用が試みられ，母児に対する影響が検討された。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

1.地域的周産期医療のシステム化に関する研究

分担研究報告書

高知医科大学産婦人科武田佳彦

本研究ではシステム化の中核である母体搬送の運用ならびに搬送対象のうち頻度が高く,多彩な病態をもつ胎内発育障害の管理について臨床的な指針作成を目的としている。本年度はとくに指針作成の基礎となる実態調査の総合的なまとめを行った。

母体搬送に関して胎児救急の運用については,評価の基礎となる「maternal transport」の定義について検討した。また地域化についての啓蒙にはそれぞれの地域特性を考慮する必要性が指摘された。母体救急では1次及び2次救急指定病院の搬送例について,対象疾患,治療内容,搬送情況等を比較した。さらに全国的規模で実施されている日本母性保護医協会の定点観測モニターによるアンケート調査を実施し,搬送の実態調査を行った。また医療経済効率の面から母体搬送を検討し,その有用性を明らかにした。

胎内発育障害児の管理については診断基準の確立と安全管理に分けて検討した。診断基準の設定ではmatched controlによる解析を行い,その病態解析を行うとともに産科的要因を説明変量とする判別を行い,スクリーニングの基準を確立した。

安全管理については,分娩誘導の基準としての肺成熟の指標を追求しphosphatidylglycerolの重要性を明確にした。またNICU収容児の検討より,妊娠26週未満,出生体重750g未満の救命率が極端に低いことから,この時期の妊娠維持を含めた問題点が検討された。胎内治療については,なお実験的研究の域を出ないが,テオフィリンによるIUGRの改善効果に基き,臨床例への応用が試みられ,母児に対する影響が検討された。